

# 特定非営利活動法人こどものミカタ 定款

## 第1章 総 則

### (名 称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人こどものミカタという。

### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を広島県広島市に置く。

## 第2章 目的及び事業

### (目 的)

第3条 この法人は、すべてのこどもに対し、体験格差の解消を図るため、こどもが自ら考え行動する自然体験型学習及び探究型学習の場を提供する事業を行い、ライフスキルを磨く活動を通して豊かで健やかな心の発達育成に寄与することを目的とする。

### (特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) 子どもの健全育成を図る活動
- (3) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (4) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

### (事 業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る活動
  - ① 山、川、海における自然体験活動、環境教育に関する事業
  - ② 食農教育及び体験農業に関するイベント等の企画及び運営
  - ③ ひとり親支援、子育て支援に関する事業
  - ④ イベント、セミナー及び講演会の企画、制作及び運営
  - ⑤ 通信制高等学校サポート校事業
  - ⑥ その他目的を達成するために必要な事業

### 第3章 会員

#### (種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し賛助するために入会した個人及び団体

#### (入会)

第7条 会員の入会について、特に条件は定めない。

- 2 正会員として入会しようとする者は、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 理事長は、前項のものを入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

#### (入会金及び会費)

第8条 会員は、理事会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

#### (会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 正当な理由なく1年以上会費を滞納し、催告を受けてもそれに応じず納入しないとき。
- (4) 除名されたとき。

#### (退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

#### (除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

#### (搬出金品の不返還)

第12条 既納の入会金、会費及びその他の搬出金品は、返還しないものとする。

## 第4章 役員及び職員

### (種別及び定数)

第13条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上
  - (2) 監事 1人以上
- 2 理事のうち1人を理事長とする。

### (選任等)

第14条 理事及び監事は、理事会において選任する。

- 2 理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることがあってはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

### (職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 4 監事は、次に掲げる職務を行う。
  - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
  - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
  - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
  - (4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。
  - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

### (任期等)

第16条 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠のため、又は増員により就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 3 役員は、辞任後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。
- 4 前各項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されない場合に限り、第1項で定めている任期

の末日後最初の理事会が終結するまでその任期を伸長することができる。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 職務の遂行に堪えない状況にあると認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に、事務局長その他の職員を置くことができる。

- 2 職員は、理事長が任免する。

## 第5章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事務局の組織及び運営
- (5) その他理事会で議決された総会に付議すべき事項

(開催)

**第24条** 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

(1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。

(2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(3) 監事が第15条第4項第4号の規定に基づいて招集するとき。

#### (招集)

**第25条** 総会は、前条第2項第3号の場合を除いて、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

#### (議長)

**第26条** 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

#### (定足数)

**第27条** 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

#### (議決)

**第28条** 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可決同数のときは、議長の決するところによる。

#### (表決権等)

**第29条** 各正会員の表決権は、平等なものとする。

2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、前2条、次条第1項及び第51条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

#### (議事録)

**第30条** 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
  - (2) 正会員総数及び出席者数（書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
  - (3) 審議事項
  - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
  - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその総会において選任された議事録署名人2人以上が記名、押印しなければならない。

## 第6章 理事会

### (構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

### (権能)

第32条 理事会は、この定款に定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) 事業計画及び活動予算並びにその変更
- (4) 事業報告及び活動決算
- (5) 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (6) 入会金及び会費の額
- (7) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第50条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (8) その他運営に関する重要事項

### (開催)

第33条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第4項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

### (招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方

法により、少なくとも3日前までに通知しなければならない。

**(議 長)**

**第35条** 理事会の議長は、理事長又は理事長が指名した者がこれに当たる。

**(議 決)**

**第36条** 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

**(表決権等)**

**第37条** 各理事の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

**(議事録)**

**第38条** 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が記名押印又は署名しなければならない。

## 第7章 資産及び会計

**(資産の構成)**

**第39条** この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立当初の財産目録に記載された資産

(2) 入会金及び会費

(3) 寄付金品

- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

#### (資産の区分)

第40条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産の1種とする。

#### (資産の管理)

第41条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て理事長が別に定める。

#### (会計の原則)

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行わなければならない。

#### (会計の区分)

第43条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計の1種とする。

#### (事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、理事会の議決を経なければならない。

#### (暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

#### (予備費の設定及び使用)

第46条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

#### (予算の追加及び更正)

第47条 予算作成後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

#### (事業報告及び決算)

第48条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、理事会の議決を経なければならない。



2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

#### (事業年度)

第49条 この法人の事業年度は、毎年6月1日に始まり、翌年5月31日に終わる。

#### (臨機の措置)

第50条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

### 第8章 定款の変更、解散及び合併

#### (定款の変更)

第51条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する事項を変更する場合には、所轄庁の認証を得なければならない。

#### (解散)

第52条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

#### (残余財産の帰属)

第53条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会の議決により選定された団体に譲渡するものとする。

#### (合併)

第54条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

## 第9章 公告の方法

### (公告の方法)

第55条 この法人の公告は、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、内閣府NPO法人ポータルサイトに掲載して行う。

## 第10章 雑則

### (細則)

第56条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

### 附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長	井上 知彦
理 事	有田 あい
同	幸田 奈津子
監 事	神戸 奈央

- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から令和5年5月31日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第44条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第49条の規定にかかわらず、成立の日から令和4年5月31日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1) 入会金	正会員（個人・団体）	<u>10,000</u>	円
	賛助会員（個人・団体）	<u>0</u>	円
(2) 年会費	正会員（個人・団体）	<u>12,000</u>	円
	賛助会員（個人・団体）	<u>0</u>	円

### 附 則

この定款は、令和 年 月 日から施行する。

## 役員名簿

### 特定非営利活動法人こどものミカタ

役職名	(ふりがな) 氏名	住所又は居所	報酬の有無
理事長	いのうえ ともひこ 井上 知彦		報酬無し
理事	ありた 有田 あい		報酬無し
理事	こうだ なつこ 幸田奈津子		報酬無し
監事	かんべ なお 神戸 奈央		報酬無し

注1 理事3名以上、監事1名以上が必要です。

2 「住所又は居所」の欄には、広島県特定非営利活動促進法施行条例第2条第2項に掲げる書面(住民票の写し等)によって証明された住所又は居所を記載してください。  
(書面のとおりに記載してください)

3 「報酬の有無」の欄には、報酬の有無の予定を記載してください。

4 役員総数に対する報酬を受ける役員数(「報酬の有無」欄の「有」の数)の割合は、3分の1以下でなければなりません(法第2条第2項第1号ロ)。

5 用紙の大きさは、日本工業規格A列4でお願いします。

# 令和4年度事業報告書

(令和4年6月1日から令和5年5月31日まで)

特定非営利活動法人コドモPRESENTS

## 1 事業の成果

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業計画の通りに事が進まなかったが、体験活動を実施することができたほか、セミナーの開催も実現することができた。セミナーのあとには相談会として保護者ひとりひとりと話をする機会を設けた。また、今年4月から開校した通信制高校については、年度途中からの入学生を見込んで活動中である。詳細は以下のとおり。

令和4年12月10日	講演会・相談会「自己肯定感の鍛え方」	(廿日市市)
12月24日	講演会・相談会「自己肯定感の鍛え方」	(広島市)
令和5年1月22日	学校説明会	(廿日市市)
2月18日	講演会・相談会「自己肯定感の鍛え方」	(廿日市市)
2月19日	講演会・相談会「自己肯定感の鍛え方」	(広島市)
2月26日	学校説明会	(広島市)
4月4日	講演会・相談会「自己肯定感の鍛え方」	(廿日市市)
4月5日	キャンプ	(芸北文化ランド)
5月14日	田植え体験	(北広島町)
5月28日	講演会・相談会「こどもの将来設計」	(広島市)

## 2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

### ① 事業名(定款に記載した事業)：山、川、海における自然体験活動、環境教育に関する事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (単位：円)
キャンプ	R5.4.5	芸北文化ランド(広島県)	2人	33人	66,000

### ② 事業名(定款に記載した事業)：食農教育及び体験農業に関するイベント等の企画及び運営

事業内容	実施日時	実施場所	従業者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (単位：円)
田植え	R5.5.14	北広島町(広島県)	2人	41人	0

③ 事業名(定款に記載した事業)：ひとり親支援、子育て支援に関する事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (単位：円)
子育てセミナー	R5.4.4	廿日市市	1人	4人	0

④ 事業名(定款に記載した事業)：イベント、セミナー及び講演会の企画、制作及び運営

事業内容	実施日時	実施場所	従業者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (単位：円)
講演会	R4.12.10	廿日市市	2人	2人	0
講演会	R4.12.24	広島市	2人	8人	0
講演会	R5.2.18	廿日市市	2人	15人	0
講演会	R5.2.19	広島市	2人	11人	0
講演会	R5.4.4	廿日市市	1人	4人	0
講演会	R5.5.28	広島市	1人	4人	0

⑤ 事業名(定款に記載した事業)：その他目的を達成するために必要な事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (単位：円)
相談会	R4.12.10他 講演会後に開催	廿日市市及び広島市	延べ 10人	延べ 14人	0
学校説明会	R5.1.22	廿日市市	2人	8人	0
学校説明会	R5.2.26	広島市	2人	8人	0

⑥ 事業名(定款に記載した事業)：通信制高等学校サポート校事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (単位：円)
レポートの作成 などのサポート、 自ら考えるヒントの提示	R5.4月以降	広島市	1人	1人	475,950

令和4年度 活動計算書  
 令和4年6月1日から 令和5年5月31日まで

特定非営利活動法人 コドモPRESENTS  
 (単位: 円)

科目	金額		
<b>I 経常収益</b>			
1. 受取会費			
入会金	100,000		
正会員受取会費	120,000		
		220,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	1,690,000		
施設等受入評価益			
		1,690,000	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	0		
		0	
4. 事業収益			
イベント参加費	66,000		
通信制高校授業料	0		
		66,000	
5. その他収益			
通信制高校協力金			
利息	1		
		1	
経常収益計			1,976,001
<b>II 経常費用</b>			
1. 事業費			
(1) 体験活動事業費			
会議費			
施設利用料	46,000		
旅費交通費	20,000		
材料費			
消耗品費			
体験活動事業費計	66,000		
(2) 通信制高校事業費			
職員委託料	400,000		
通信費			
水道光熱費	15,758		
消耗品費			
広告宣伝費	60,192		
法定福利費			
高等学校事業費計	475,950		
事業費計		541,950	
2. 管理費			
(1) 事務所家賃			
通信制高校家賃	1,518,000		
水道光熱費			
消耗品費			
広告宣伝費			
雑費	51,355		
管理費計	1,569,355		
(2) その他経費			
高等学校事業所敷金等	2,277,000		
経営指導料	335,000		
システム初期設定料	50,000		
支払利息			
その他経費計	2,662,000		
管理費計		4,231,355	
経常費用計			4,773,305
当期経常増減額			-2,797,304
<b>III 経常外収益</b>			
1. 借入金			
経常外収益計			
<b>IV 経常外費用</b>			
1. 過年度損益修正損			
経常外費用計			
当期正味財産増減額			-2,797,304
設立時正味財産額			0
次期繰越正味財産額			-2,797,304

貸借対照表  
令和5年5月31日現在

特定非営利活動法人コドモPRESENTS  
(単位：円)

科 目		金 額	
I	資産の部		
	1. 流動資産		
	現金預金	202,696	.
	流動資産合計		202,696
2. 固定資産	有形固定資産		
	什器備品	0	
	固定資産合計		0
	資産合計		202,696
II	負債の部		
	1. 流動負債		
	役員借入金	3,000,000	
	流動負債合計		
2. 固定負債	固定負債		
	固定負債合計		0
	負債合計		3,000,000
III	正味財産の部		
	前期繰越正味財産		0
	当期正味財産増加額	△ 2,797,304	
	正味財産合計		△ 2,797,304
	負債及び正味財産合計		202,696

財産目録  
令和5年5月31日現在

特定非営利活動法人コドモPRESENTS  
(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
もみじ銀行普通預金	202,696		
流動資産合計		202,696	
2. 固定資産			
有形固定資産			
什器備品	0		
固定資産合計		0	
資産合計			202,696
II 負債の部			
1. 流動負債			
役員借入金	3,000,000		
流動負債合計		3,000,000	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			3,000,000
正味財産			△ 2,797,304

監 査 報 告 書

私は、令和5年5月31日、令和4年度（令和4年6月1日から令和5年5月31日まで）における収支計算書、貸借対照表並びに財産目録につき会計諸帳簿および領収書、預貯金等証券書類を監査したところ、適正妥当であると認めたので報告します。

特定非営利活動法人コドモPRESENTS

監事 神戸 奈央